

平成28年度全国学力・学習状況調査 結果概要

1 目的

- (1) 児童・生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育および教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各学校は、児童・生徒の学力や学習状況を把握するとともに、児童・生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 実施日

平成28年4月19日（火曜日）

3 調査児童・生徒数

【品川区における調査対象児童・生徒数】

調査対象	学校数	児童・生徒数
小学校・義務教育学校（6年生）	37校	2,127人
中学校・義務教育学校（9年生）	15校	1,587人

4 内容

(1) 教科に関する調査

出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とする。

出題内容：「知識」と「活用」の2種類の問題を出題

ア 主として「知識」に関する問題（国語A、算数A、数学A）

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響をおよぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした出題

イ 主として「活用」に関する問題（国語B、算数B、数学B）

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容を中心とした出題

(2) 質問紙調査

ア 児童・生徒質問紙調査

調査する学年の児童・生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

イ 学校質問紙調査

各学校を対象に、指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 出題の趣旨（抜粋）

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
<p>[小学校・国語A]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む・書く。 ・目的や意図に応じて、書く事柄を整理する。 ・登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉える。 <p>[中学校・国語A]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文脈に即して漢字を正しく読む・書く。 ・話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する。 ・全体と部分との関係に注意して、話を構成する。 ・伝えたい事柄について根拠を明確にして書く。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>[小学校・国語B]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する。 ・目的や意図に応じて、表を基に、自分の考えを書く。 ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む。 <p>[中学校・国語B]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉える。 ・目的に応じて文章を要約する ・本や文章などから必要な情報を読みとり、根拠を明確にして自分の考えを書く。 <p style="text-align: right;">など</p>
<p>[算数A]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数の大小関係を理解している。 ・全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合の意味について理解している。 ・直方体における面と面との位置関係を理解している。 ・示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表すことができる。 <p>[数学A]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数量の関係を文字式に表すことができる。 ・対称移動した図形を書くことができる。 ・一次関数のグラフの特徴について、表と関連付けて理解している。 ・簡単な場合について確率を求めることができる。 <p style="text-align: right;">など</p>	<p>[算数B]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述できる。 ・示された式に数値を当てはめて、目標のタイムを求めることができる。 ・単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定することができる。 ・正方形に内接する円の半径について理解している。 <p>[数学B]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現することができる。 ・筋道を立てて考え、証明することができる。 ・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。 <p style="text-align: right;">など</p>

6 教科に関する調査の結果

(1) 平均正答率

	国語 A	国語 B	算数 A・数学 A	算数 B・数学 B
品川区 (6年生)	76.0	61.1	81.5	51.1
品川区 (9年生)	76.8	69.4	63.9	44.1

(2) 良好であった問題

* [] 内は学習指導要領における領域・内容

(6年生)

【国語】

- ・委員会を紹介するパンフレットを作るため、追加の取材をした理由として適切なものを選択する。
[B 書くこと：考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。]
- ・「パン職人」に関する本を選んだ目的の説明として適切なものを選択する。
[C 読むこと：目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。]

【算数】

- ・テープ全体の長さを基にしたときの赤い部分の長さの割合が、一番大きいものを選ぶ。
[D 数量関係：百分率について理解できるようにする。]
- ・示された二つの表だけでは判断できないものを選ぶ。
[D 数量関係：資料を分類整理し、表やグラフを用いて分かりやすく表したり読み取ったりすることができるようにする。]

(9年生)

【国語】

- ・語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。
[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項：事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心を持つこと。]
- ・情報カードにまとめる内容として適切なものを選択する。
[C 読むこと：文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり用紙をとらえたりすること。]

【数学】

- ・1から13までの数字が書かれた13枚のカードから5または11のカードをひく確率を求める。
[D 資料の活用：不確定な事象についての観察や実験などの活動を通して、確率について理解し、それを用いて考察し表現することができるようにする。]
- ・ $DA : DC = 1 : 2$ のときの $\triangle DEC$ がどのような三角形になるかを説明する。
[B 図形：図形の合同について理解し図形についての見方を深めるとともに、図形の性質を三角形の合同条件などを基にして確かめ、論理的に考察し表現する能力を養う。]

(3) 課題の見られた問題

* [] 内は学習指導要領における領域・内容

(6年生)

【国語】

・『おばあさんの飛行機』を読んで、登場人物の人物像を説明するために、根拠となる表現として適切なものを選択する。7

[C 読むこと：場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。]

・「パン職人」について、紹介したい内容をまとめて書く。

[C 読むこと：目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。]

【算数】

・定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く。

[D 数量関係：百分率について理解できるようにする。]

・示された四角形を並べてできる図形を選ぶ

[C 図形：図形についての観察や構成などの活動を通して、平面図形についての理解を深める。]

(9年生)

【国語】

・話し合いを踏まえた発言として適切なものを選択する。

[A 話すこと・聞くこと：相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。《話し合うこと》]

・図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを書く。

[B 書くこと：伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。《記述》]

【数学】

・反比例を表した事象を選ぶ。

[C 関数：具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、比例、反比例の関係についての理解を深めるとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を培う。]

・24.5cmの靴を最も多く買うという考えが適切ではない理由を、グラフの特徴を基に説明する。

[D 資料の活用：目的に応じて資料を収集し、コンピュータを用いたりするなどして表やグラフに整理し、代表値や資料の散らばりに着目してその資料の傾向を読み取ることができるようにする。]

(4) 課題解決に向けて

(6年生)

【国語】

課題：物語の登場人物の人物像を捉えること。

対策：登場人物の人物像を捉えるために、物語全体を通して人物像が分かる行動描写や会話などに印をつけたり線を引いたりし、それら複数の叙述を関係付けながら表に整理することなどが考えられる。各場面の様子に気を付けながら、場面と場面とを関係付け、登場人物の特徴や性格が分かる叙述をpushさえていくことで、登場人物の人物像を多面的に捉えることができる。

課題：目的に応じて、文章の内容を的確にpushさえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。

対策：目的に応じて、「文章の内容を的確にpushさえる」とは、何のために、どのようなことが必要かなどを明確にすることである。その際、文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方や巧みな叙述などについて注意して読ませることが考えられる。

「自分の考えを明確に」するとは、筆者の考えに対する自分の考えを明確にしていくことである。その際、自分の知識や経験、考えなどと関係づけながら読ませることが考えられる。

【算数】

課題：1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解すること。

対策：日常生活においては、増量や値引きなど様々な場面で割合が用いられているが、理解のためには、基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることが大切である。本設問においては定員が基準量であることを捉える場面を設定すること、また、定員の人数を求める場面を設けることが考えられる。

課題：図形を構成する角の大きさを基に、示された四角形を並べてできる形を判断すること。

対策：図形を構成する活動の中で、なぜ図形が構成できるのかを図形の特徴や角についての知識などを基に考える場を設けることが大切である。例えば、設問にある四角形を並べて正六角形をつくる活動を取り入れ、正六角形ができる理由について話し合うことなどが考えられる。

(9年生)

【国語】

課題：互いの発言を検討して自分の考えを広げること。

対策：合意形成を目指す話し合いを行う際には、相手の立場や考えを尊重し、場面に応じて的確に話したり聞いたりすることが大切である。その際、互いの発言を検討し、話題になっている物事について別の立場や視点から考えることを通して、自分の考えを広げることができるように指導する必要がある。また、話し合いを通して広がった自分の考えを基にして、説得力のある新たな発言をするなど、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うことができるようにする。

課題：解釈したことについて、根拠を明確にして説明すること。

対策：文学的な文章を読む際に、必要に応じて百科事典や図鑑などの資料を参考にし、そこから具体的にイメージした場面の様子などについて交流することが考えられる。その際、文章のどの部分に着目し、どのような事柄を基にして内容を理解したり想像を広げたりしたのかなど、根拠を明確にして説明し合うように指導する。

【数学】

課題：具体的な事象における2つの数量の関係を式に表し、反比例の関係を見出すこと。

対策：具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応の様子を調べる活動を取り入れることが考えられる。その際、式に表すことが困難な生徒に対しては、数量の関係を言葉の式や線分図などで表したり、表をつくって具体的な数値を基に変化の様子を調べたりする活動を取り入れ、問題場面の理解を深められるようにする。

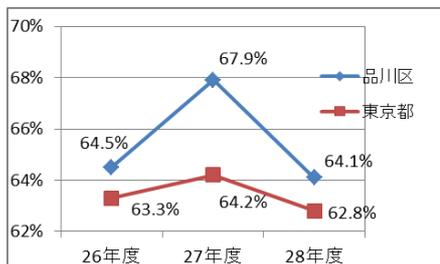
課題：資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。

対策：資料の傾向を的確に捉えて判断できるようにするために、代表値を求めたり、資料の分布の様子を捉えたりする場面を設定することが考えられる。その際、判断の理由を最頻値などの代表値を用いて、簡潔に分かりやすく説明できるようにすることが大切である。

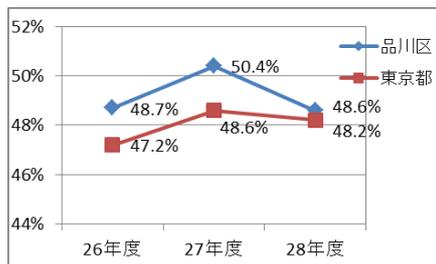
7 質問紙調査の結果

質問：家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。（肯定的な回答の合計）

（6年生）

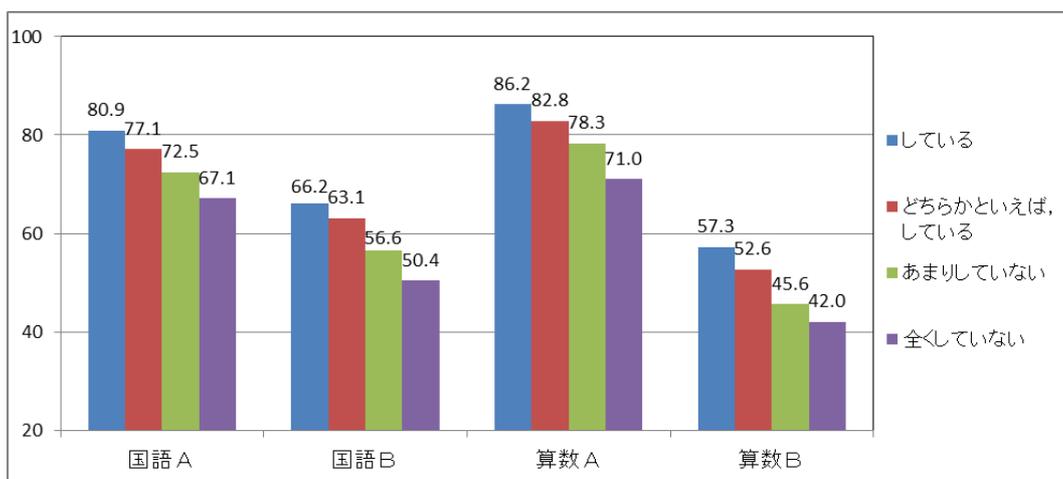


（9年生）

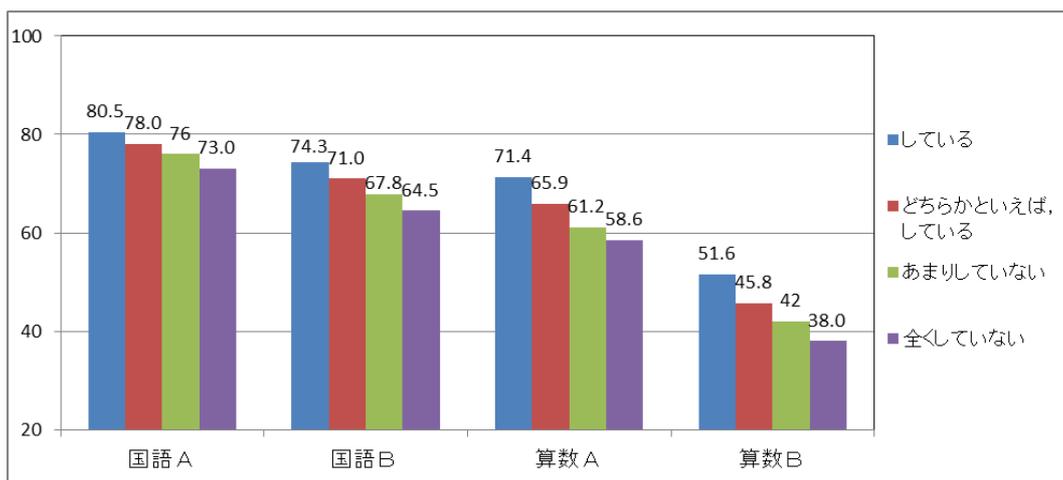


※「肯定的な回答」・・・各質問に「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童、生徒の割合の合計

平均正答率 (%) との関係 (6年生)



平均正答率 (%) との関係 (9年生)

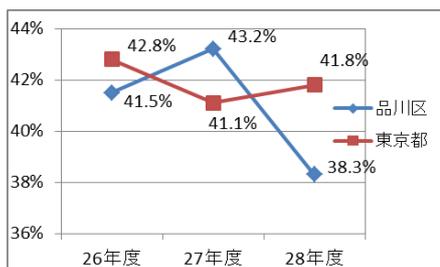


「家で、自分で計画を立てて勉強していますか。」という質問に、6年生では64.1%が、9年生では48.6%が肯定的な回答をした。それぞれ、前年度よりも数値が下がっているが、東京都の児童・生徒の回答を上回っている。

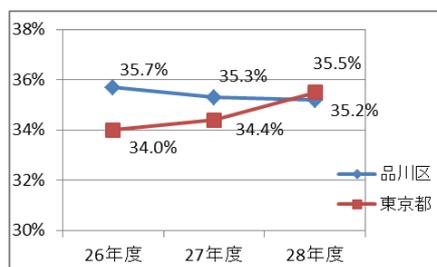
また、平均正答率との関係を見ると、「計画を立てて勉強をしている」と考えている児童・生徒ほど全ての教科に関する調査において正答率が高い結果となった。

質問：家で学校の授業の予習をしていますか。(肯定的な回答の合計)

(6年生)

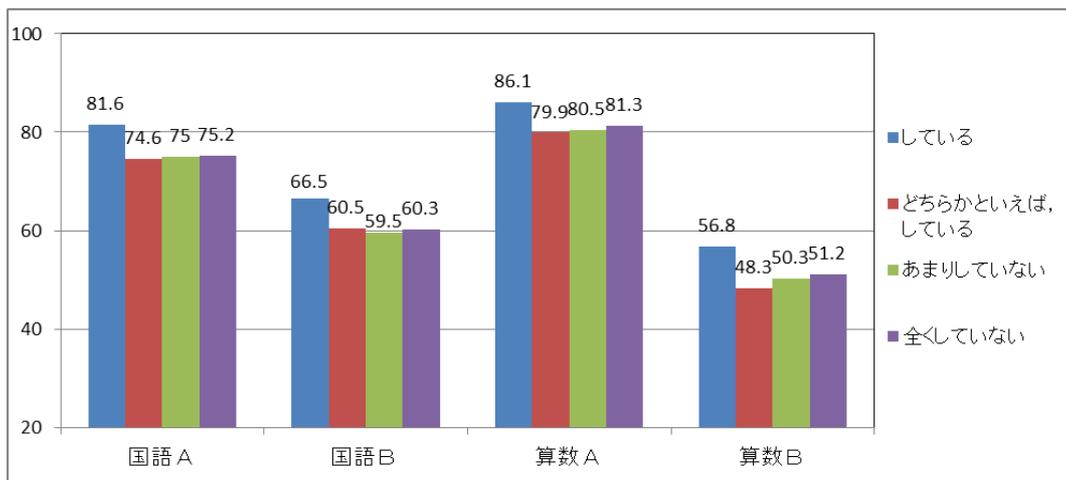


(9年生)

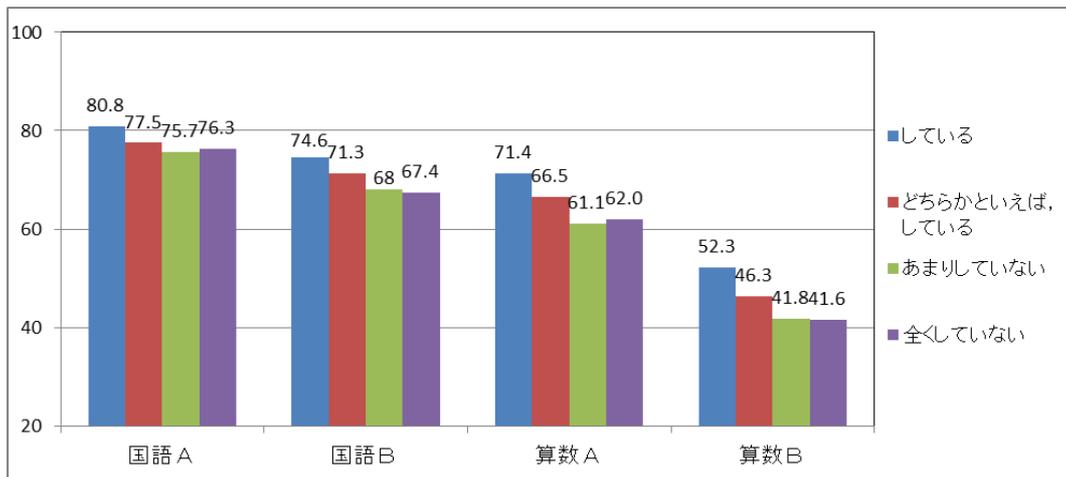


※「肯定的な回答」・・・各質問に「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童、生徒の割合の合計

平均正答率 (%) との関係 (6年生)



平均正答率 (%) との関係 (9年生)

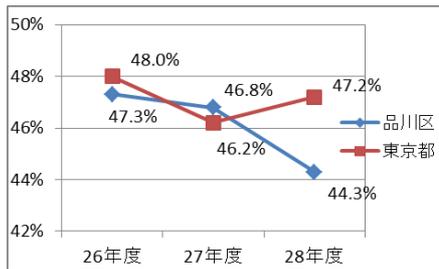


「家で学校の授業の予習をしていますか。」という質問に、6年生では38.3%が、9年生では35.2%が肯定的な回答を行った。それぞれ、前年度と比較して数値が下がっており、特に6年生では4.9ポイント下がっている。東京都の児童・生徒の回答と比較すると、6年生では3.5ポイント、9年生では0.3ポイント下回っている。

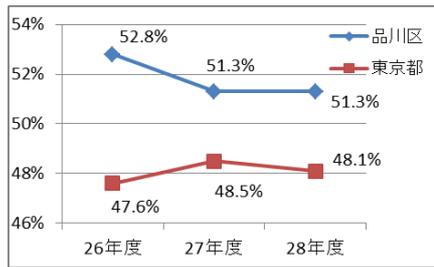
また、平均正答率との関係を見ると、6年生では「している」という回答をしている児童の正答率が高く、その他の回答をした児童は、あまり正答率に差がない。一方、9年生では、肯定的な回答をした生徒の正答率が高くなっている。

質問：家で学校の授業の予習をしていますか。(肯定的な回答の合計)

(6年生)

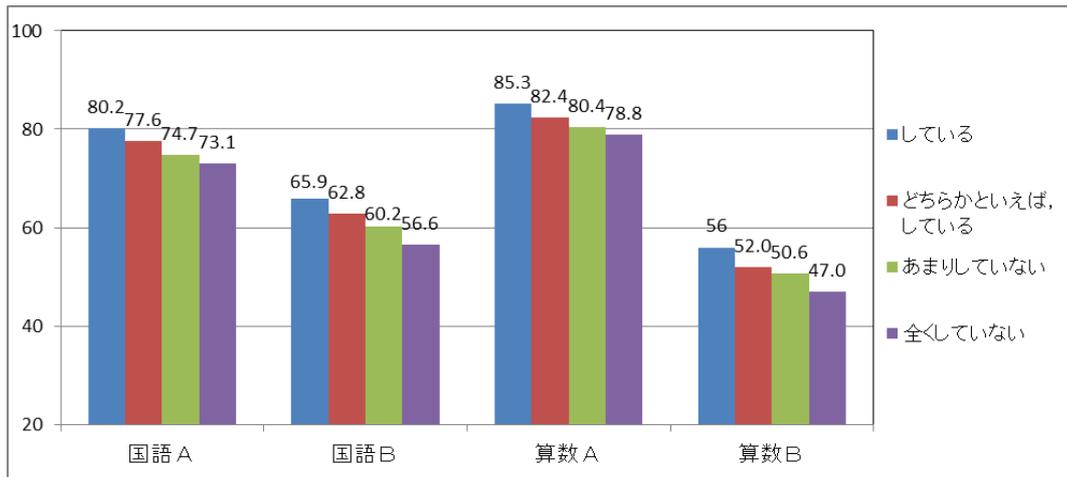


(9年生)

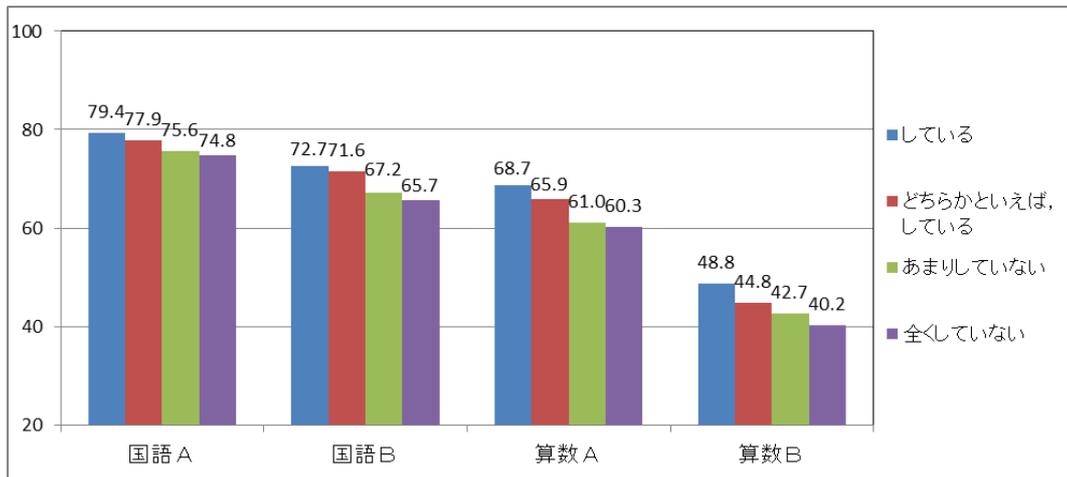


※「肯定的な回答」・・・各質問に「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童、生徒の割合の合計

平均正答率 (%) との関係 (6年生)



平均正答率 (%) との関係 (9年生)



「家で学校の授業の復習をしていますか。」という質問に、6年生では44.3%が、9年生では51.3%が肯定的な回答を行った。前年度と比較して6年生では数値が下がっており、東京都の児童の回答と比較すると、2.9ポイント下回っている。9年生では前年度と数値が同じで、東京都の生徒の回答と比較すると、3.2ポイント上回っている。

また、平均正答率との関係を見ると、「学校の授業の復習をしている」と考えている児童・生徒ほど全ての教科に関する調査において正答率が高い結果となった。